参考資料5

令和２年度　認知症初期集中支援推進事業
実績集計

（令和2年4月～12月末時点）

１．各区　訪問支援対象者数　実績
２．各区　月別　訪問支援対象者数
３．全市集計　性別・世帯・年齢階級
４．全市集計　相談経路・情報媒体
５．全市集計　終了ケース分析　主治医・サービス・DASC
６．全市集計　終了ケース分析　介護度・診断
７．全市集計　終了ケース分析　相談時期　支援の理解
８．全市集計　終了ケース分析　拒否の有無　終了後

1. 各区　訪問支援対象者数　実績
（令和2年4月1日～令和2年12月31日報告分）

表-1

（人）

年度	北区	都島区	福島区	此花区	西淀川区	淀川区	東淀川区	旭区	中央区	西区	港区	大正区	天王寺区	浪速区	東成区	生野区	城東区	鶴見区	阿倍野区	住之江区	住吉区	東住吉区	平野区	西成区	総計
2017終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
2017 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	**1**
2018終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	8
2018対象外	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
2018 計	10	0	16	9	0	11	0	20	12	8	31	20	17	4	0	21	49	0	25	8	11	47	23	24	**366**
2019継続	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	15	0	1	0	0	0	0	0	19
2019終了	7	9	10	16	12	11	22	9	7	13	18	21	12	10	0	16	40	12	25	9	10	27	20	36	372
2019対象外	0	0	0	9	0	0	0	2	2	0	5	4	2	3	0	2	0	0	3	6	11	5	2	17	73
2019 計	41	13	55	63	22	54	36	41	37	40	58	84	42	33	0	53	109	42	58	40	71	97	63	68	**1,220**
2020一時中断	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
2020継続	11	9	8	20	7	15	18	18	11	10	20	15	27	11	10	13	35	15	21	11	12	12	24	21	374
2020終了	13	35	11	22	27	44	20	20	19	24	19	18	12	7	40	31	25	25	32	18	31	36	30	14	573
2020対象外	0	0	0	10	0	0	0	5	0	0	2	0	1	1	1	0	0	0	0	2	3	1	0	0	26
2020 計	24	44	19	52	34	59	38	45	30	34	41	33	40	19	51	44	60	40	55	31	46	49	54	35	**977**
稼働総計	31	53	29	78	46	70	60	57	39	48	69	58	56	32	51	62	123	52	85	46	67	81	76	88	1,457
2020訪問支援対象者計	24	44	19	42	34	59	38	40	30	34	39	33	39	18	50	44	60	40	55	29	43	48	54	35	**951**

※「対象外」は、対象者情報を把握したが、アセスメント等を実施した結果、初期集中支援の対象とはならないものと、チーム員会議で判断したもの。（例：すでに認知症にかかる医療、介護サービス両方を受けていた場合など）

（人）

図-1

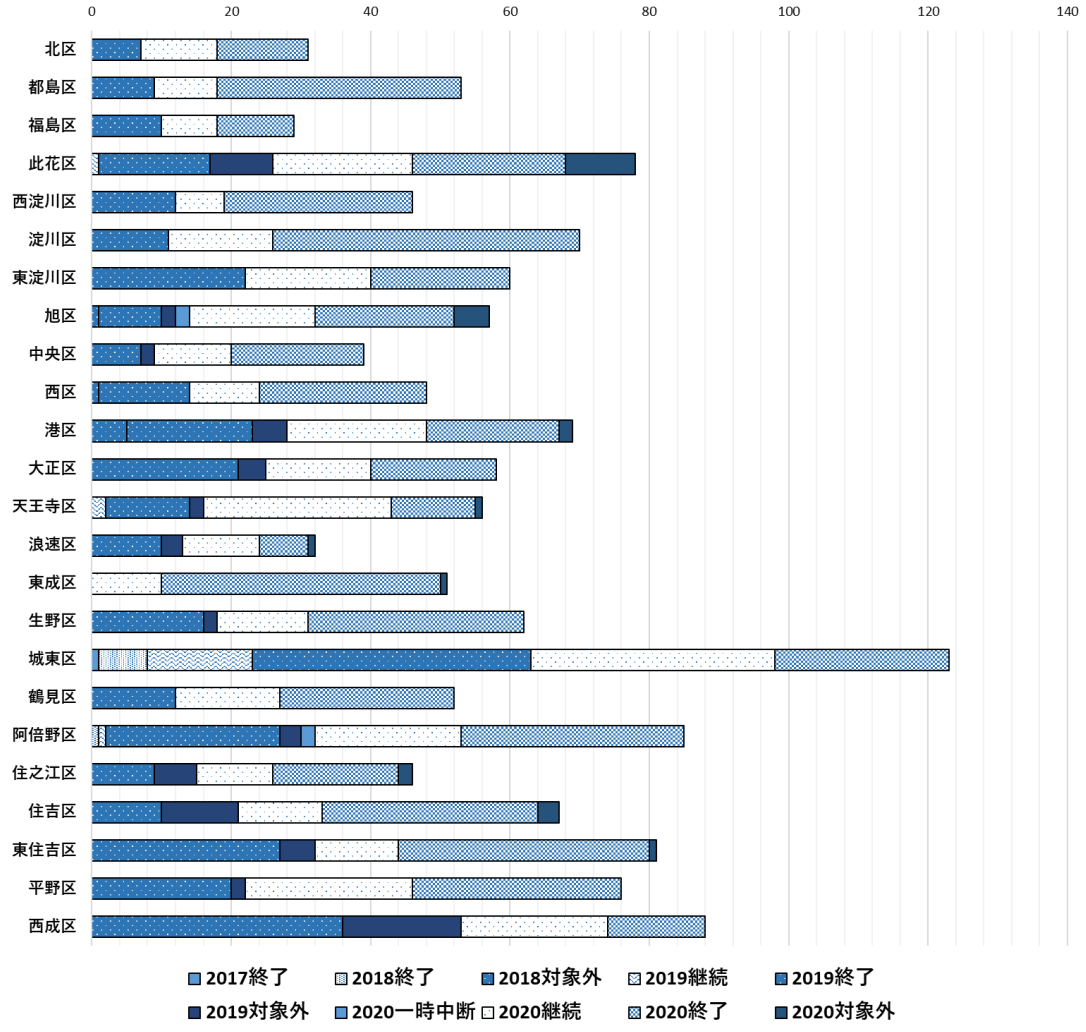


表-1　R1年度の12月時点支援対象者数は1007人で56人減少している。

2. 各区月別　訪問支援対象者数
（令和2年4月1日～令和2年12月31日把握分　対象外を除く）

（人）

表-2

区名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	月平均
北区	2	1	1	2	4	4	3	4	3				24	2.6
都島区	1	2	8	8	9	5	4	5	2				44	5.3
福島区	0	4	2	1	4	2	3	3	0				19	2.4
此花区	6	0	5	6	8	4	3	5	5				42	4.6
西淀川区	6	4	2	4	4	5	2	4	3				34	3.9
淀川区	7	5	8	5	10	9	5	7	3				59	7.0
東淀川区	2	3	9	3	6	5	4	3	3				38	4.4
旭区	1	7	3	6	5	6	5	3	4				40	4.5
北エリア計	25	26	38	35	50	40	29	34	23	0	0	0	300	34.6
中央区	1	4	4	5	5	4	1	3	3				30	3.4
西区	5	1	7	3	5	2	5	0	6				34	3.5
港区	4	2	2	5	4	7	6	7	2				39	4.6
大正区	3	2	3	1	3	4	9	3	5				33	3.5
天王寺区	0	2	5	4	3	3	6	9	7				39	4.0
浪速区	1	1	1	2	2	4	4	2	1				18	2.1
東成区	4	6	6	5	4	6	2	11	6				50	5.5
生野区	4	6	5	4	3	6	8	6	2				44	5.3
城東区	7	5	11	7	5	5	10	6	4				60	7.0
鶴見区	1	7	5	4	3	5	5	7	3				40	4.6
中央エリア計	30	36	49	40	37	46	56	54	39	0	0	0	387	43.5
阿倍野区	3	9	7	11	5	4	10	4	2				55	6.6
住之江区	2	4	5	3	4	2	1	6	2				29	3.4
住吉区	3	2	3	8	6	6	2	2	11				43	4.0
東住吉区	1	4	12	7	8	7	2	4	3				48	5.6
平野区	2	4	6	8	6	6	6	10	6				54	6.0
西成区	6	7	1	1	5	4	3	5	3				35	4.0
南エリア計	17	30	34	38	34	29	24	31	27	0	0	0	264	29.6
総計	72	92	121	113	121	115	109	119	89	0	0	0	**951**	**107.8**

図-2

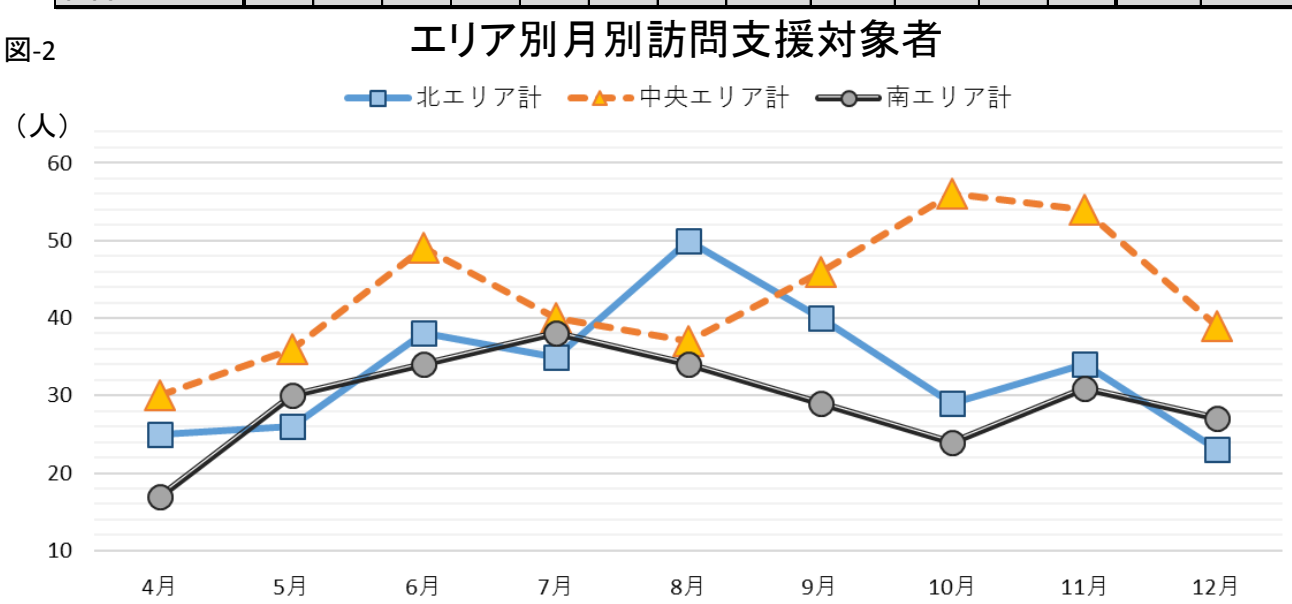
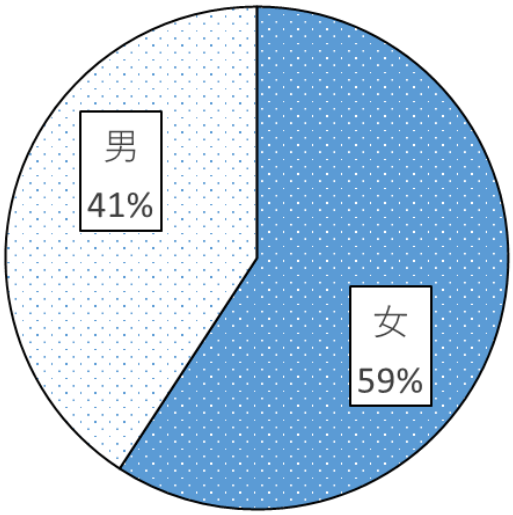


表-2　全市の月平均はR1年度108件、R2年度は107件で大幅な変化はない。
図-2　4月～6月の増加は全市同傾向だが、以降は各エリアばらつきがある。

3. 全市集計　性別・世帯・年齢階級
（令和2年4月1日～令和2年12月31日把握分　対象外を除く）　N=951

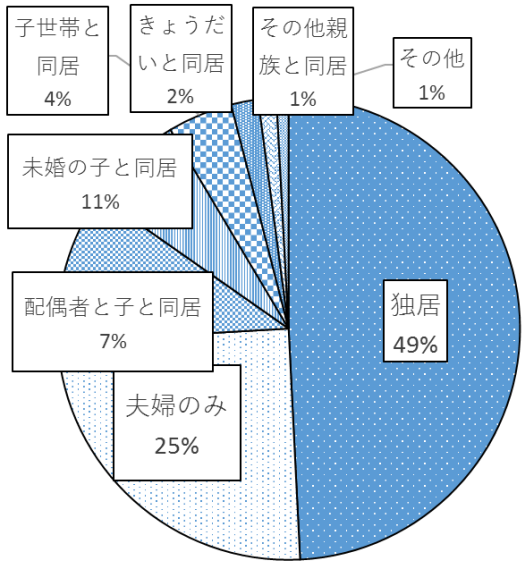
性別

図-3



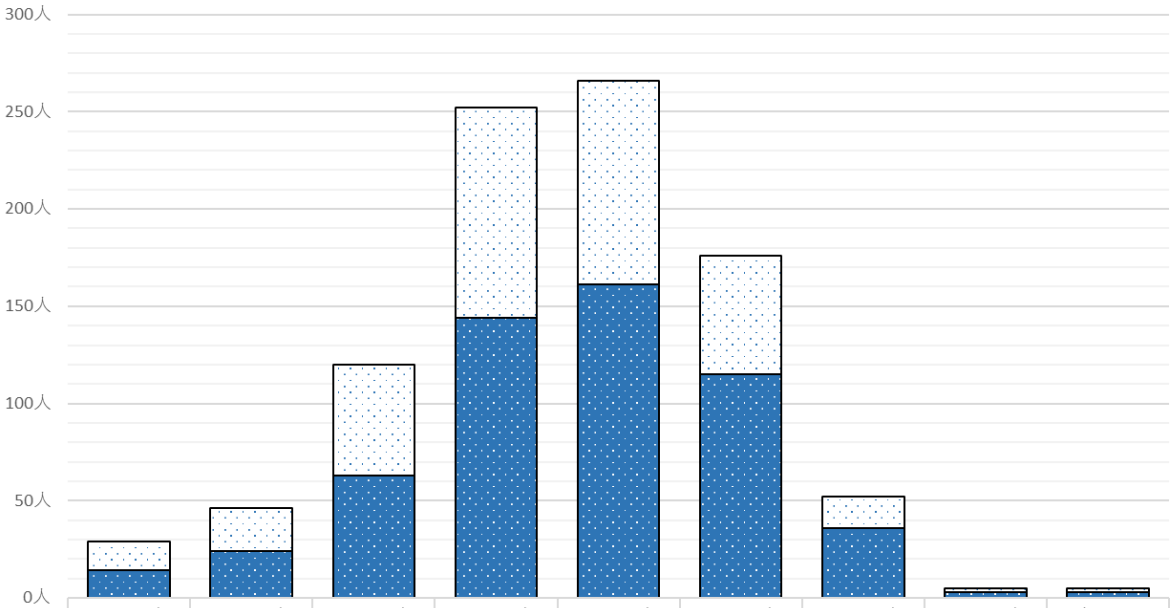
世帯別

図-4



年齢階層別・性別　訪問支援対象者数

図-5



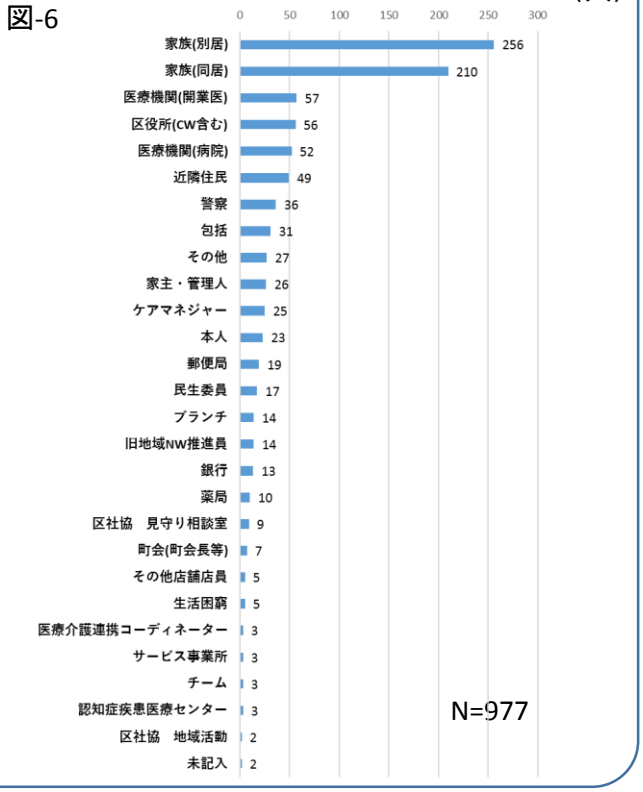
	40-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90-94歳	95-99歳	未記入
男	15	22	57	108	105	61	16	2	2
女	14	24	63	144	161	115	36	3	3

図-3・図-4　性別、世帯別の割合は、前年と構成比はほぼ変わっていない。
図-5　前年と比べ75-79歳階層が伸びている。

4. 全市集計　相談経路・情報媒体
（令和2年4月1日～令和2年12月31日把握分）

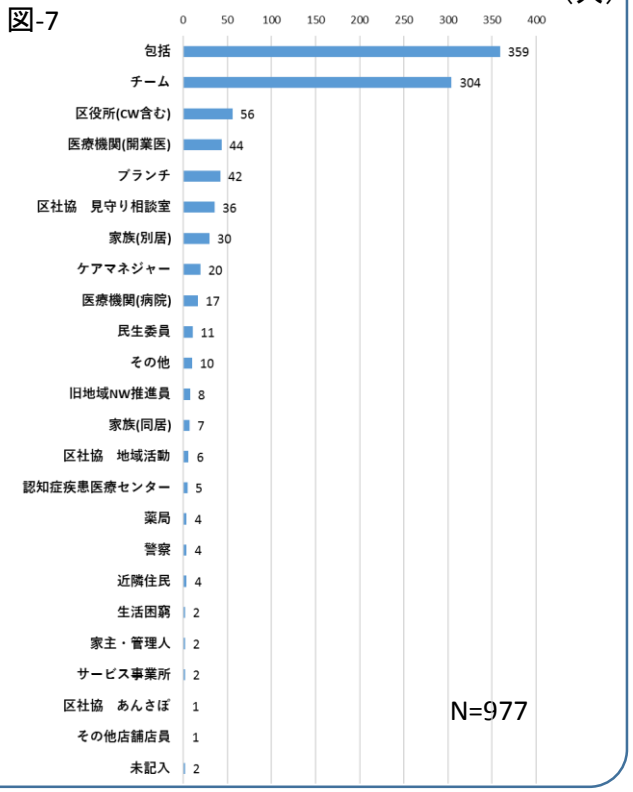
最初に気づいた人

図-6



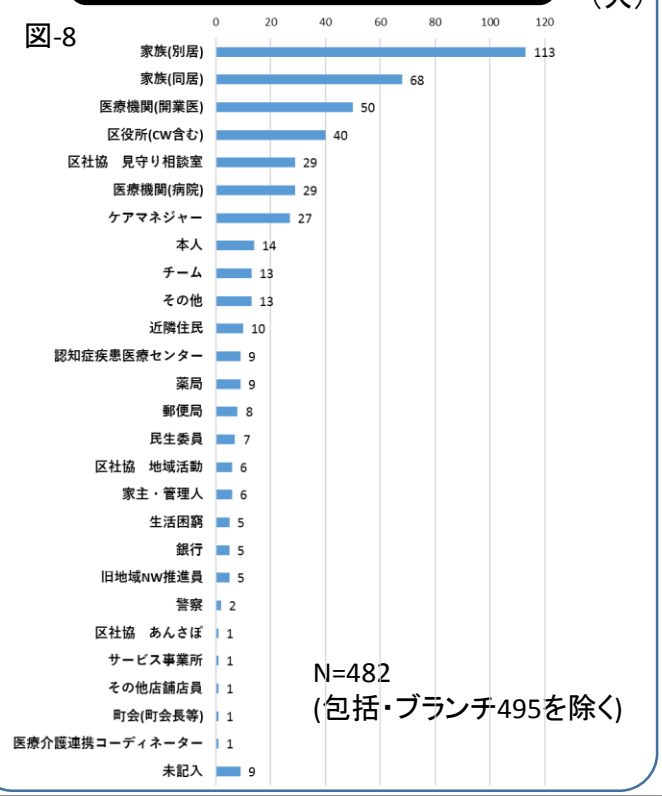
相談者が最初に連絡した機関

図-7



チームに直接つないだ機関

図-8



チームの情報を得た媒体

図-9

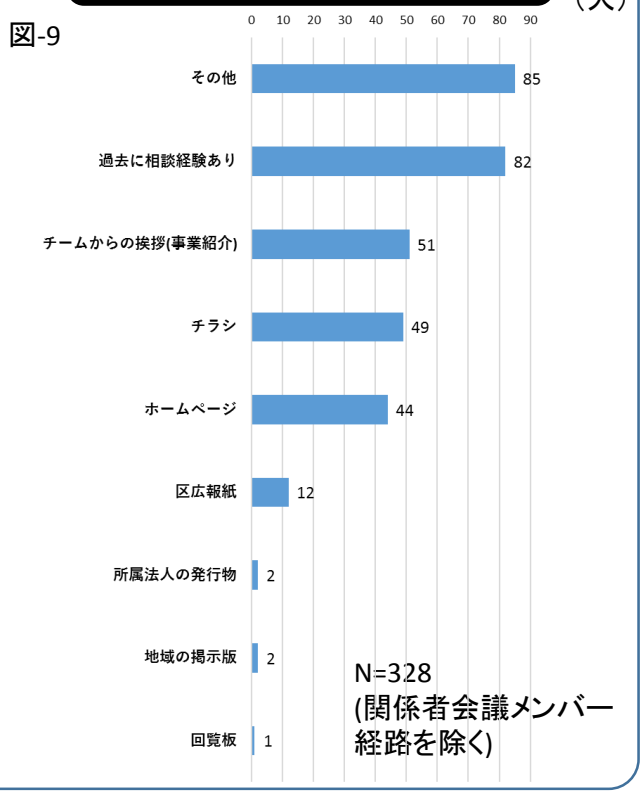
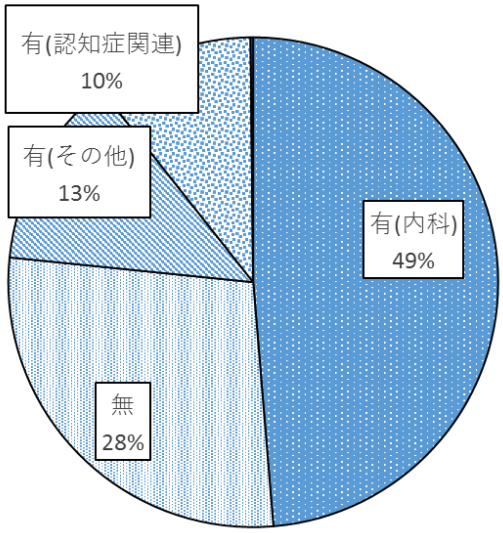


図-6・図-7・ 図-8　今年度は各経路で開業医が増加している。
図-9　その他がトップになり、チラシが減少しホームページが増加している。

5. 全市集計　終了ケース分析 主治医・サービス・DASC
（令和2年4月1日～令和2年12月31日報告分　終了ケース）　N=573

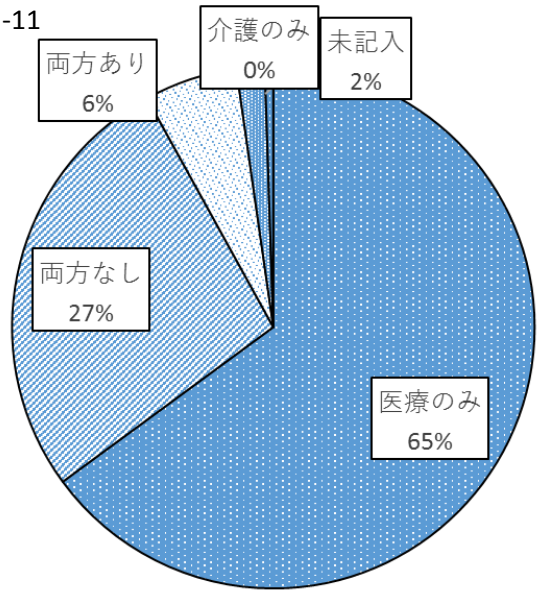
主治医の有無

図-10



介入時サービス

図-11



（介入時）アセスメント結果（DASC）
（合計点が31点以上の場合、「認知症」の可能性ありと判定）

図-12

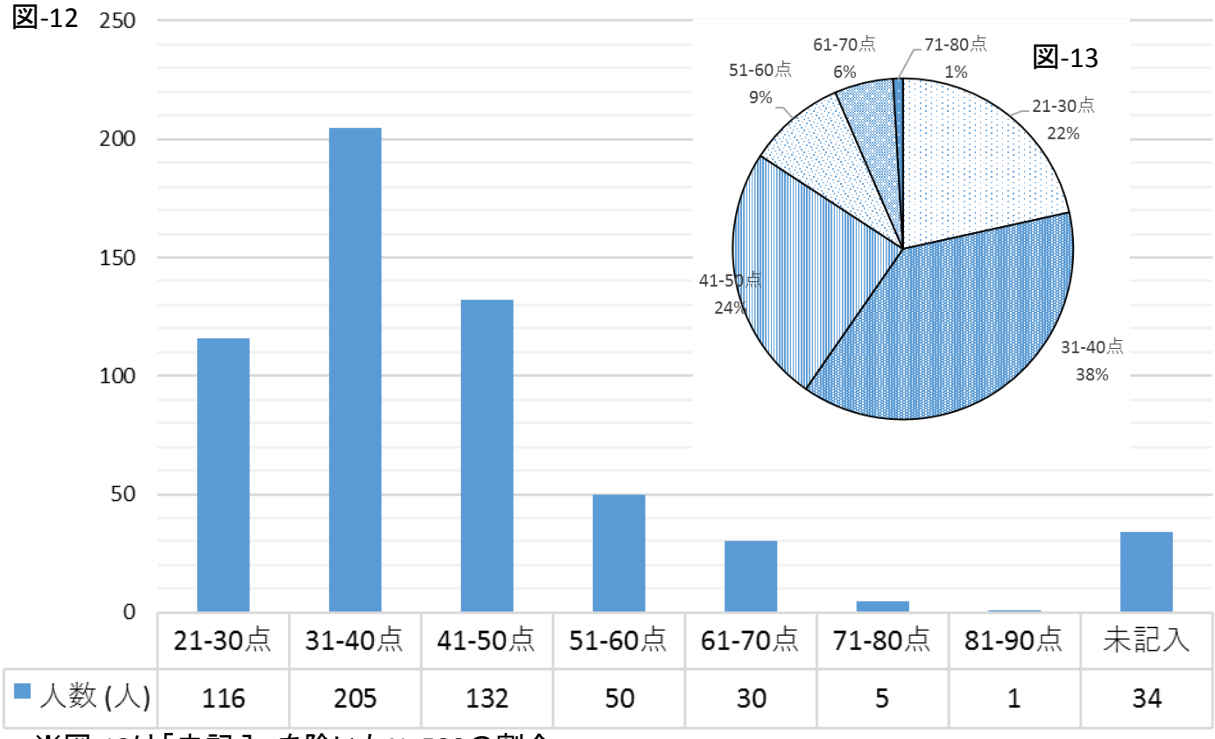


図-13

※図-13は「未記入」を除いたN=539の割合。

図-10・図-11　介入時の医療・介護サービスの利用状況は昨年度と比べ大きな変化はない。
図-12　介入時DASCについては、今年度全体の平均値は39.6点。前年の38点より重度化の傾向。

6. 全市集計　終了ケース分析　介護度・診断
（令和2年4月1日～令和2年12月31日報告分　終了ケース）　N=573

図-14

要介護度別　介入時・後

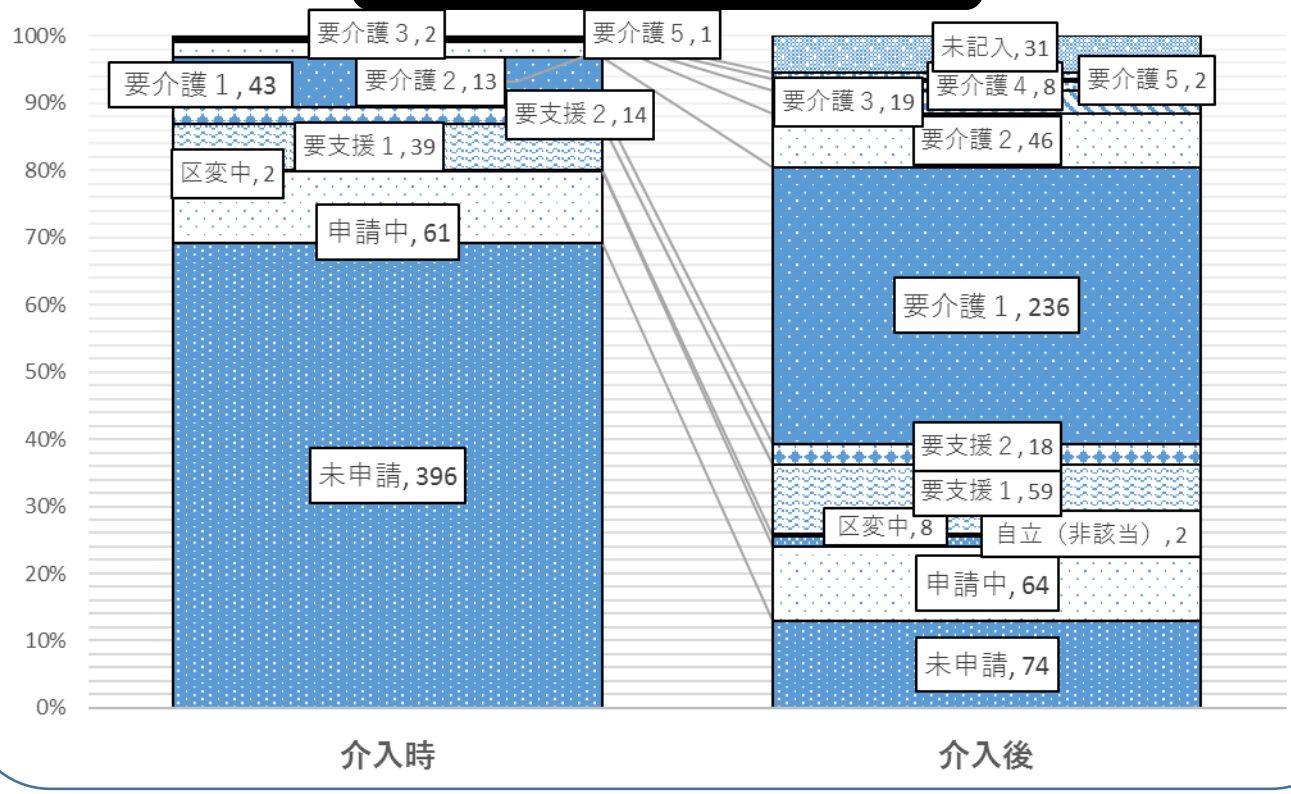


図-15

認知症の診断　介入時・後

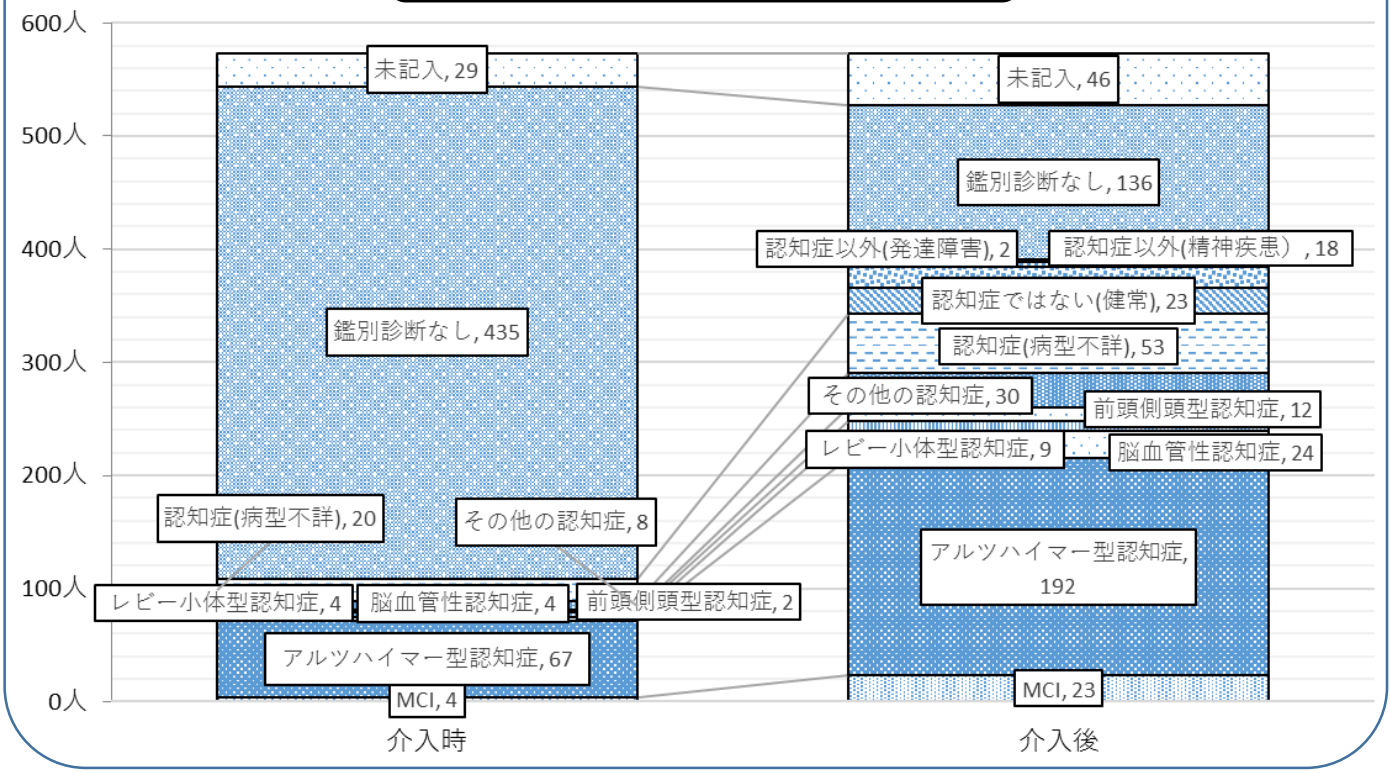
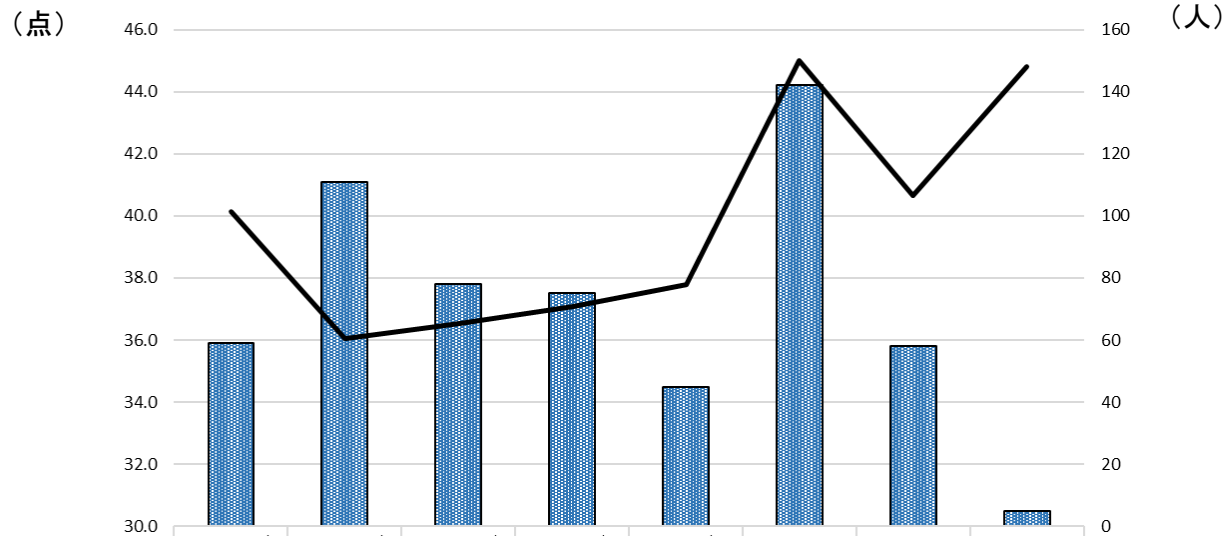


図-14　介護保険未申請者の81%が申請につながっており、介入後の介護度の割合は前年と大きな変化はない。図-15　認知症の診断は「鑑別診断なし」が前年に比べ2%減少した。

7. 全市集計　終了ケース分析　相談時期　支援の理解
（令和2年4月1日～令和2年12月31日報告分　終了ケース）　N=573

図-16　相談者が認知症を疑い始めた時期と介入時平均DASC



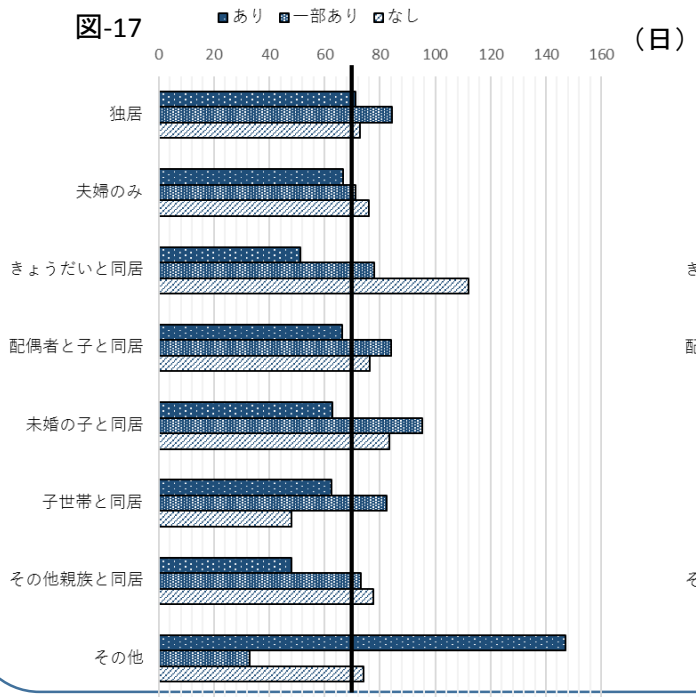
	1週間以内	1ヶ月以内	3か月以内	半年以内	1年以内	1年以上前	不明	未記入
人数	59	111	78	75	45	142	58	5
平均 / DASC	40.1	36.0	36.5	37.1	37.8	45.0	40.6	44.8

全体平均日数=74.2

支援必要性の理解と世帯別平均支援日数

介入時　支援必要性の理解　（本人）

図-17



介入時　支援必要性の理解　（家族等）

図-18

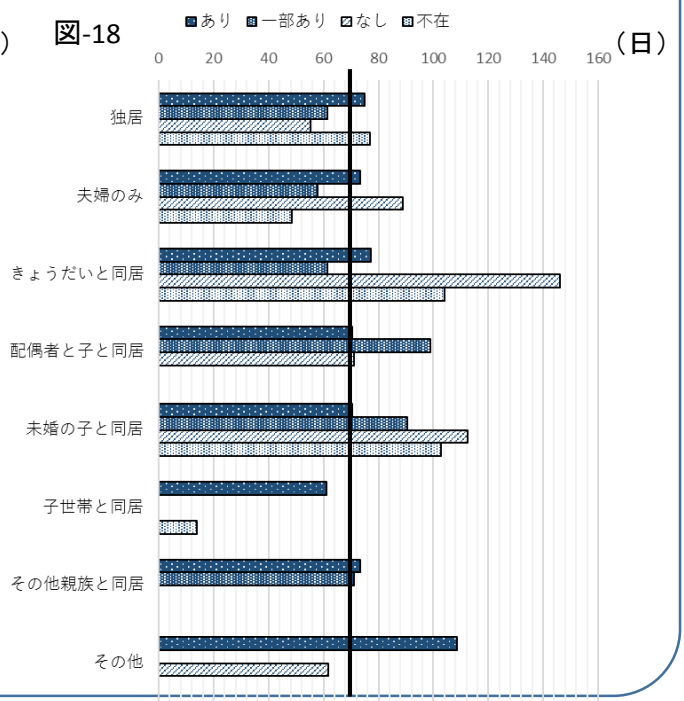
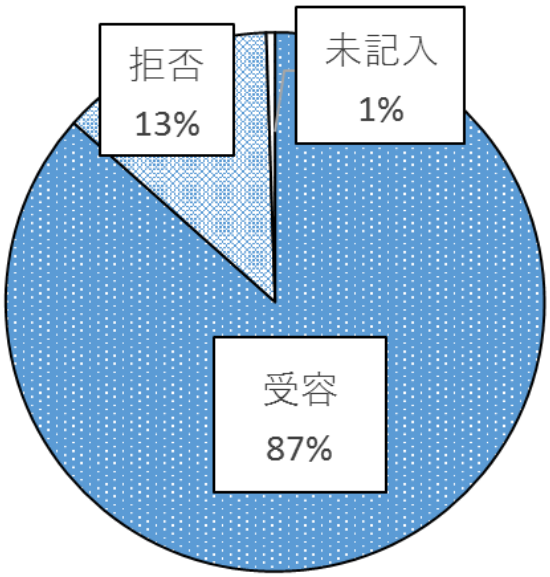


図-16　一週間以内に気づいたケースは例年DASCが高い傾向があり、別居家族、警察、区役所、病院経路の相談が多くを占めることから、発症時点の気づきでなく、課題発生時の気づきと思われる。図-17・図-18　本人は理解があるとされるケースが長期化傾向だが、家族は理解がないケースが長期化傾向にある。

8. 全市集計　終了ケース分析　拒否の有無　終了後
（令和2年4月1日～令和2年12月31日報告分　終了ケース）　N=573

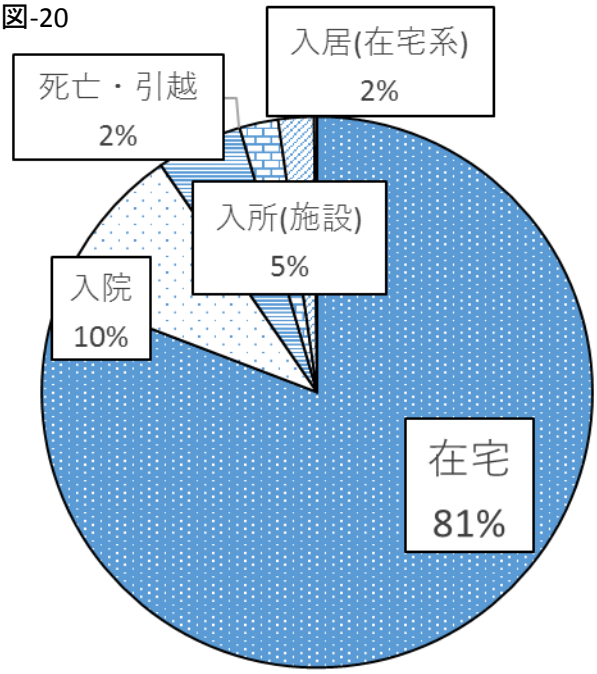
チーム員の関わり方に対する姿勢（本人）

図-19



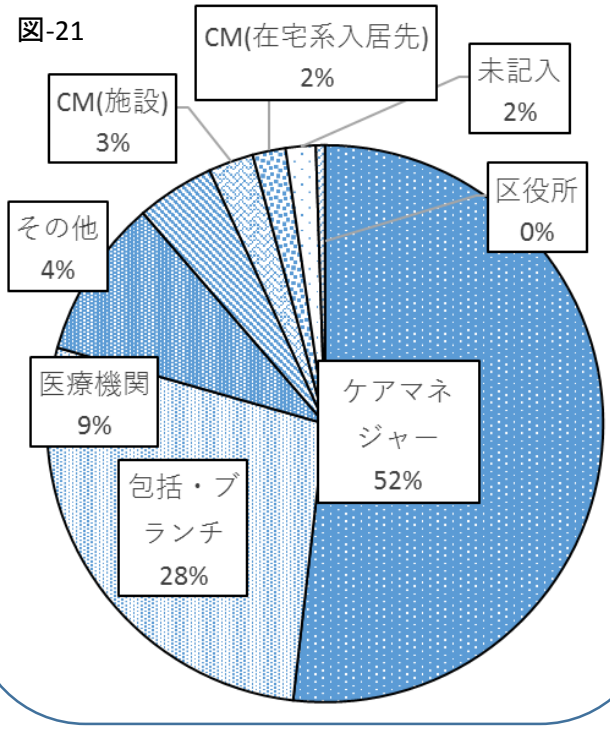
支援終了後の生活場所

図-20



支援終了後の主な引き継ぎ先

図-21



引き継ぎ先が包括の理由

図-22

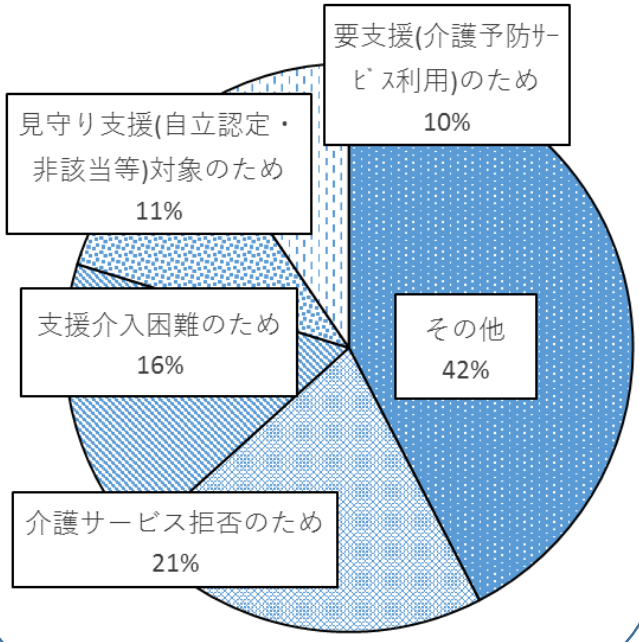


図-19　前年とほぼ変化はない。図-20　前年に比べ施設入所が1%、入院2%増加している。
図-21　ケアマネへの引き継ぎが4%増加している。 図-22　その他の割合は依然多い。